総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会
次世代再生可能エネルギー導入検討小委員会（第 24 期・第 1 回）議事要旨

〇日 時： 平成 30 年 9 月 28 日（金）15:00～17:00
〇会 場： 宇宙システム開発利用推進機構 3 階第 1 会議室

〇出席者（敬称略・名簿順）：大政謙次、大久保泰邦、北川尚美、山地憲治、
柘植綾夫、芦田譲、安藤満、大和田野芳郎、中尾信典
〇議事録作成者：中尾信典

〇資料
資料 1：総合工学委員会　エネルギーと科学技術に関する分科会小委員会の設置について（次世代再生可能エネルギー導入検討小委員会）
資料 2：総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会次世代再生可能エネルギー導入検討小委員会名簿
資料 3：シンポジウム案
資料 4：記録（総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会　分散型再生可能エネルギーのガバナンス）

〇議題
1. 自己紹介：

2. 小委員会趣旨説明：
資料 1 に基づいて、当該小委員会の設置目的などが確認された。議論の内容は以下のとおり。
- 委員会名にある『次世代』とは再生可能エネルギー導入の形態が『次段階の』ということ。
- 名称には『～システム』とついていないが、システムも含めたもの。
- エネルギー供給のみならず、消費のことも含めた議論をすべきである。現状では『地産都消』となっている。
- 分散型というワード自体が地産地消を含めての議論となっている。
- 今何が問題となっているかを明らかにして、それを解決すべく提言をするもの。議論が発散しないようにフォーカスも必要である。

3. 委員長等選出：

委員の互選により、委員長に大和田野芳郎氏が選出された。大和田野委員長が、副委員長に大久保泰邦氏、幹事(2 名)に松島潤氏（当日欠席)、中尾信典を指名し、承認された。

4. シンポジウム案の検討　及び
5. 提言の方向性：

資料 3 に基づいて、シンポジウムの内容及び提言の方向性について以下の議論を行った。

- シンポジウムは日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会と日本工学アカデミーとの共催の予定。進め方については予算などを含め日本工学アカデミーとも相談する。
- タイトルをしっかりと考える必要がある。
- シンポジウムの発信先は、再生可能エネルギー利用者、一般ユーザー、自治体など。政策的には資源エネルギー庁などが関係してくる。
- シンポジウムの導入部として、再生可能エネルギーの現状のレビューがあるべき。その後で『次段階』という流れ。
- 全体のツリー構造があって、住宅や交通などの各要素が構造の一部としてある。そのような構成でシンポジウムをシリーズ化できる。
- ある程度ターゲットを絞ってシリーズ化してはどうか。2，3 回のシンポジウムが開ける。
- やはり講演等に自治体を入れる必要があると思われる。
- 地中熱利用の見える化に精力的に取り組んでいる地域の大学、例えば福島大などを出せないか。
- 住宅をテーマとするのであれば、住宅用蓄電池なども含まれる。酸化チタンなどの塗装技術もある。
- FIT 後の普及をどうするか、方向性として提言できるようにしてはどうか。
- 自治体、バイオマスに焦点を当てるのも必要である。
- まずは、住宅、建物への再生可能エネルギーの最先端導入事例を紹介するというのでいかがか。成功例の必要条件、地域特性などを盛り込む。
- 企業に話題提供してもらうと、自社自慢になる恐れがある。大学や国研に話してもらったほうがいい。
- コマツの工場や岡山のバイオマスも取り上げてほしい。
- 仮タイトル『再生可能エネルギーシステムの最先端導入事例紹介　－建物の場合―』として、各技術の組み合わせが重要という方向性でシンポジウムの構成をまとめることする。

- 提言の方向性としては、シンポジウムを 2，3 回開催し、その内容を『報告』として取りまとめることとしたい。

6. その他

今後の進め方について：

- 今年度中にシンポジウムを開催することとし、日本学術会議の会場を 2019 年 3 月 8 日、15 日、25 日で仮予約した。
- 事務局でシンポジウムのタイトル、プログラム構成、講演者候補等のシンポジウム案を作成し、メール審議とする予定。スケジュール的には 10 月中にシンポジウム案を当該小委員会で固め、11 月上旬には上部委員会に諮ることとする。
- 当日親委員会であるエネルギーと科学技術に関する分科会を開催するかは状況を見つつ検討する。

議事要旨の承認は、会議等開催後にメール等により、出席者が議事要旨の内容を確認し、出席者全員が確認したことが明らかになった後、承認については議長に一任することとした。

以上